

平成27年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	京都大学大学院	職名	後期博士課程3回	助成金額	300,000 円
氏名	福田安佐子	メール アドレス	fukuda3@gmail.com		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
ポストヒューマニズムの時代における芸術					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>本研究は、ポストヒューマニズムの思想と、それに関連した問題の社会にもたらす影響が、芸術や、メディアにおいていかに表象されてきたか、またはその表現方法や議論の主題の変遷を明らかにすることを目的とする。このため、以下の二回に分け、助成金を使用した。</p> <p>① 2015年10月24-30日 第56回ヴェネツィア・ビエンナーレ（2015年5月9日-11月22日、ヴェネツィア、イタリア）における調査</p> <p>② 2016年7月27日 第20回国際美学学会（2016年7月24-29日、ソウル、韓国）における学会発表</p> <p>渡航費：87,660円+32,370円（京都-ヴェネツィア、京都-仁川間） 滞在費：約81,000円（一泊約9,000円、ヴェネツィア5泊+ソウル4泊） 資料購入費：60,000円 現地交通費、雑費：約40,000円</p> <p>まず①において、最も規模の大きい現代芸術の国際展示会であるヴェネツィア・ビエンナーレがそのテーマとして「世界中のさまざまな未来のすべて」と掲げていることから、現地調査に赴き、以下記載の紀要にその報告を行った。「未来」をテーマとした展示でありながら、それは90年代前後に流行したような、SF的モチーフや最新技術を用いた展示ではなく、むしろ、前世紀における（ポスト）植民地主義やグローバル化をテーマとした作品を使用しながらも、その配置に気をくばることで、現代ある問題から未来をいかに思考しうるか、という実験的な展示であったことを報告した。これは、研究計画書において提起したように、ポストヒューマニズムの芸術表現に過去への回帰が認められることとの呼応があるといえる。また、②においては、ゾンビ映画における「目」と「まなざし」の使用についての学会発表をおこなった。ゾンビ映画とは、それが誕生した1930年代においては植民地主義からの強い影響を受けており、また現在においてはポストヒューマニズムとの関連から論じうる。これを踏まえ、本発表では、古典的なナラティブにおいて使用された「目」や「まなざし」の表現が、ゾンビという新たな生のかたちを表現する際に応用されていることを時系列に沿って詳らかにした。またその方法は、21世紀に入って製作されたゾンビ映画においては、さらにメディア技術の進歩とともに格段に変化しているとまとめた。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合はURLを記載すること。）					
発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）		
① 福田安佐子	さまざまな未来について：第56回 ヴェネツィア・ビエンナーレ"All the World's Futures"(2015年5月 9日~11月22日)	京都大学大学院人間・環境学研究所 岡田温司研究室紀要『ディアファネ ース：芸術と思想』 http://hdl.handle.net/2433/217004	2016年3月30日		
② 福田安佐子	A Reconsideration for Interpreting Zombie Film: "Eye" and "Vision" as Tools "	20th International congress of Aesthetics in Soule "Aesthetics and Mass Cultures", 2016.07.24-07.29	2016年7月27日		